

# 令和3年度 音楽科 授業充実（改善推進）プラン

## 昨年度のプランの検証

新型コロナウイルスの影響で、表現活動に制限がかかったことが影響しているためか、声で表現する能力の低さが感じられる。発声に関しては、体を使わずに口先で発声しており、他パートとのハーモニーの美しさに気づき、美しいハーモニーを作る意識が低い。

これを踏まえ、腹式呼吸や、共鳴について触れながら、生徒主体のグループワークを行うことで、他パートとの旋律やハーモニーの関りを体感させ、皆で一つの作品を作り上げる喜びと、音楽の美しさを味わい、合唱コンクール等の学校行事に親しんでいく態度を育てていきたい。

## 課題（各観点について）

観 点	分 析
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要なキーワードを覚えることはできるが、それが音楽に及ぼす影響や役割等を考えて学習を深めることができていないため、キーワードについて説明することができない生徒が多い。</li> <li>アンサンブルの際に、他パートにつられてしまい、自分のパートの音程を正しく歌えず、また音程が正しく取れていないことに気づくことができない生徒が多い。</li> </ul>
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>どちらかというと、表現力よりも技術の能力の方が高く、表現力が乏しい。表現記号等を覚えていても、それを実際の表現活動に生かすことができていない。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒は、周りの生徒と協力しながら、主体的に学習に取り組む姿が見られるが、苦手意識を持ち学習に消極的な生徒もいる。</li> </ul>

## 授業改善のポイント（調査結果等を踏まえて）

[知識・技能]

- プリントでは、重要なキーワードをただ覚ええるだけの活動にならないよう、それぞれが音楽に及ぼす影響や役割等を考えさせる物を準備する。
- 腹式呼吸や、音の共鳴の仕方をトレーニングして、声量の増量を目指す。
- グループワークを取り入れ、他パートとのハーモニーを意識できるようにする。その中で、自分のパートの音を正しく歌うためにはどのようにトレーニングする必要があるのか、生徒自身が改善していけるよう助言を行う。

[思考力・判断力・表現力]

- グループ活動を取り入れ、生徒同士が音楽で表現し合い、その課題に気づき、改善していけるような授業を計画する。

[主体的に学習に取り組む態度]

- 特に、合唱等の表現活動においては、一つの作品を全員で作る喜びと責任を共有し、全員が主体的に学習に取り組む態度の育成に努め、授業改善を図る。

## 学年別の課題と改善策

[1年生]

- 素直で頭声発声の美しい生徒が多い。1学期は、内面を開放する活動を行ってきたが、これからは規律と技術の向上に努めた活動を行う。

[2年生]

- 合唱活動では、体を使って歌わずに口先でささやくように発声している生徒が多い。まずは、声量を出すために、腹式呼吸を行い声量増量に努める。
- 音楽と実生活の関りが薄いため、音楽と生活を関連付けた授業を行い、音楽に親しんでいく態度を育成する。

[3年生]

- 鑑賞活動では、オーケストラの各楽器が表現していることや、その変化に気づくことができ、鑑賞したことを言葉で表現することができる鑑賞能力の高い生徒が多いが、鑑賞したことを言葉にすることの苦手意識から、鑑賞活動を積極的に行えない生徒がいる。鑑賞のポイントと、言葉の表現を共有することで、前向きに活動できるよう授業改善を図る。
- 合唱活動では、多くの生徒が声量豊かに堂々と歌うことができ、豊かな声質である。しかし、ダイナミクスの幅が狭く、表現力が乏しいため、様々な場面や気持ちの時の、息のスピード・間の取り方・色彩等と音楽を位置させる活動を行う。

